

学校点描

来年度に向けて、日課を変えて試行しています。生徒が生き生きと生活を送る学校づくりが狙いです。

《K中学校》

NO.17

R6. 1. 31

担当：校長

1月13日からZ王坊平にてY県中学校総合体育大会スキー大会クロスカントリー競技が開催されました。男子5kmフリー競技、5km男子クラシカル競技で、A・Kさんが第13位と第12位になりました。女子3Kmフリー競技でO・Nさんが第8位に、O・Sさんが第9位となり、Nさんが全国・東北大会出場権を、Sさんが全国大会の出場権を獲得しました。同じく女子3Km クラシカル競技で、O・Sさんが第8位、O・Nさんが第9位となり、Sさんが全国・東北大会の出場権を、Nさんが全国大会の出場権を獲得しました。

1月14日からY沢市天元台スキー場にてY県中学校総合体育大会スキー大会アルペン競技が開催されました。女子回転と女子大回転で、A・Mさんが、第9位と第10位となりました。

令和5年度 第35回読書感想画中央コンクール山形県審査会の結果、S・Hさんの「52ヘルツのクジラたち」が自由読書の中学生の部で優秀賞に輝きました。

1月25日に地区英語暗唱大会が新庄市民プラザ大ホールで開催され、I・Tさんが1年生の部で優良賞に輝きました。

道の世界と残心

体育の授業では、外部の方をお願いして、武道を教えています。学習指導要領には、『武道に積極的に取り組むことを通して、武道の伝統的な考え方を理解し、相手を尊重して練習や試合ができるようにする』なんて書いてあります。本校では“合気道”そして“剣道”を外部から先生を招いて実践しています。

剣道は、外部から柴崎先生と、梅津先生の30代の先生をお願いしています。柴崎先生は本校の卒業生です。梅津先生は鮭川村から吹雪の中でも最上町に通ってくれます。先日授業を参観しに行くと、先生がお手本の面打ちを1年生の生徒に見せていました。お手本であっても武道館全体の緊張感が高まり、静かな中に、バチン！と大きな音が響き渡ります。続いて生徒たちも、先生方を相手に、やや遠慮しながらの面打ちをしていきます。「もっと思い切ってたたいいいよ」とお二人の先生が生徒に言葉を掛けていました。



日本文化には茶道や華道、剣道や弓道、合気道など「道」と名のつくものがあります。そもそも「道」とは何なのでしょう。習い事には音楽やスポーツなど様々ありますが、「道」とつく習い事の世界では、技術や知識の向上、気分転換といった日常の変化のみならず、先人たちが人生を捧げ磨き上げたその究極の世界観、空気感を、稽古を通して学ぶことを目指しています。

“残心”という言葉が、「道」のつく世界にはあります。剣道であれば、例え勝負が決まって

も相手としっかり対峙して、緊張の心を維持する意味なのかなと思っています。わたしは茶道で使う“余情残心”がなんとなくぴったりきます。“余情残心”とは、茶事が終わってお客様が帰った後、残った茶を飲みながらその日の自らの行動を反省し、今日のお客様のことを考え続けるという心を意味します。何か事を起こすときには、心を残し、自らを省みる。その心模様を「道」と名がつく世界では大切にしているようです。

★

★

★

わたしは一時、教員を退職して市役所の職員として働いていました。夏場のまつりのときは、観衆の整理をしましたし、冬場は水上がり要員として役所待機もしていました。毎日、毎日市民からの苦情や要望も聞いていました。

月曜日は、課内の職員が全員集合して、自分か抱えている仕事についての報告を行う朝礼がありました。あるとき、報告が終わった後に、上司であるK次長が、報告を終えた数名の部下に向かってこんな話をしました。

「みんなは、スーパーに買い物に行ってる？牛乳買うとき、私は、手元にある牛乳を手に取ります。」と。不思議な話で心に残りました。そして、スーパー



で牛乳が置いている冷蔵コーナーに行って「あーこういうことなんだ」とようやく気付きます。手前に並ぶ商品は消費期限が短いものが並ぶのですよね。

とっても小さなことだと思いました。でも、自分が行っている行動は、きっと何かの、誰かの役に立つんだと思うこと。そのために、行動ひとつに心を残すことが大切だと

いうことでしょう。

★

★

★

剣道の両先生には校長室で給食を食べてもらい、剣道の授業の感想を聞きました。「今の生徒は竹刀で面をたたくことにもためらいがあるようです」と、わたしが聞くと、柴崎先生は、「剣道では、勝負以上にお互いを敬ってこそ、思い切りたたけるんです。」と返してくれました。何かをし終えたあとにまで、相手を思いやる心を残す。

K次長の牛乳の話は、今になって“教師道”はどうなんだと問いかけてくれています。

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。